

## 令和5年度 第3回京丹後市史跡整備検討委員会 会議録

- 1 **開催日時** 令和6年3月15日（金） 午後1時30分～午後5時
- 2 **開催場所** 網野保健センター2階集団指導室
- 3 **出席者** 三浦到会長、杉原和雄副会長、藤田泰弘副会長、岸本直文委員、小山元孝委員、松井敬代委員、梅田和男委員、野村安正委員、毛呂敏弘委員、澤吉博委員、久保有紀委員、吉岡ひとみ委員、藤原可苗委員、奥田幸子委員、京都府文化財保護課記念物係、（事務局 松本明彦教育委員会教育長、村田雅之文化財保存活用課長、岡林峰夫文化財保存活用課長補佐、藤田智子文化財保存活用課主任、村上公太文化財保存活用課主任、稲岡信一土木課長）

**欠席者** 小林朝子委員、大江裕観光振興課長

### 4 議事

- 1 開会挨拶
- 2 議事
  - (1) 令和5年度網野銚子山古墳の整備工事について
  - (2) 令和6年度網野銚子山古墳の整備工事について
  - (3) 今後の網野銚子山古墳の活用について
  - (4) その他

5 **公開又は非公開の別** 公開

6 **傍聴人の人数** 0人

### 7 要旨

## 1 開会挨拶

事務局：今日は皆様、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。ただいまから令和5年度第3回京丹後市史跡整備検討委員会を開催いたします。開会にあたりまして、京丹後市教育委員会の松本教育長がご挨拶を申し上げます。

教育長：皆さんこんにちは。本日はご多用のところ、令和5年度第3回の京丹後市史跡整備検討委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

さて京丹後市では、市内の6中学校のすべてで卒業式を行い、天気の良い中、約400人の中学3年生が巣立っていったところでもあります。そうした子供たちにもそういう文化財というところを学んでいただけるような機会を作っていけないというふうに思っているところです。

京丹後市ではふるさと納税を熱心にやっております、皆さんもご存じかと思いますが、ふるさと納税の中には、寄附を限定してするふるさと納税がございます。今年度文化財保存活用事業を支援するという事に限定した、ふるさと納税を行ったところ、思った以上に集まっております。また詳しいところは伝えていただけたらと思っておりますけど、京丹後市以外の方々にですね、文化財ということに関する関心は本当に高いということが、そういうことの結果からも伝わってくるということで、そういう期待が本当にたくさんあるのではないかと感じさせていただいてるところです。

さて、この銚子山古墳の整備工事ですけれども、いよいよ来年度完成ということに向けて進めていただきたいというふうに思っていますので、委員の皆様には今日またこの後、実際現地に行って見ていただくようなこともあろうかと思っておりますけれども、進捗状況についてご確認いただきまして、来年度、残り1年の工事内容について、皆さんからご意見をいただけたらというふうに思います。

また、前回ご指摘いただきました。誘導看板であったり、案内看板などのサインの設置計画について、引き続き審議をいただきたいというふうに思っておりますので、いろんな角度からご意見をいただければありがたいというふうに思っています。

市の財政状況が本当に厳しい状況ではありますけれども、6年度の事業内容については、ご意見いただいたものをしっかり反映させていきたい、いただきたいというつもりでございますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局：続いて、会長のご挨拶をいただけたらと思いますので、一言お願いできますでしょうか。よろしくお願いいたします。

会長：ご苦勞様です。今年度最後の史跡整備の委員会、私も1週間前にちょっと現状を見

てきたのですけども、今年度工事ほとんど終わってまして、そんな状況にあります。来年度は最終年度ということですので、今日は整備の内容をぜひ見られるとともに、今後さらにご協力をいただきたい、というふうに思っております。

それから教育委員会の方で、銚子山の方も、発掘調査を行ったわけですが、その報告書を今年度で作成するというので、今印刷屋さんの方に回ってるようでありまして、またそれらにつきましては、最終的にはホームページでも公開するようになっているようですので、またご覧いただければありがたいというふうに思っております。

そういうことで、今日、本年度の事業の結果を見ていただくとともに、来年度に関して、皆さん方からご意見をいただきたいというふうに思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。

それからですね、これから現地の方へ行かれると思うんですけども、その前にですね、隣の部屋、調理室があります。その隣の部屋にちょっと入っていただいて、それはその上から見る俯瞰ですね。頂上部分の側面がもっと見えるので、そっちを立ち寄ってから、現地に行きたいと思ひます。

## 2 議事

### ・令和5年度網野銚子山古墳の整備工事について

～事務局説明～ ～現地視察～

会長： ご苦労様でした。それぞれお気づきの点がありましたら、はい。

委員： 私いつも思うんですが、この側面の景観をですね、見えるようにしたいという思いがあります。今日、海側から山側から古墳を見ていただいてわかったと思ひますが、非常に綺麗に墳丘が残っているということです。ただ、今ある先ほど歩いた道沿いではですね、距離が近すぎて全体像が見えない。ということで、もう少し離れたところからだったら見えるんですが、今度駐車場作ってますけどもそれよりちょっと、50メートルか 100メートル、もう少し南のほうにいったところにちょっと小高いところありましたね。そこを行けば全体が綺麗に見えるというところがありますので、またそれは駐車場ができた段階で整備いただきたい。

委員： それに関係してですけどね、今報告書を作られてますよね。そのときにも、写真載せられると思うんですけど、今皆さんおっしゃったように、今日配っていただいた資料の3ページの下の方の端の写真。前の状態から言えば本当すごくよろしいんですけども。これから先、報告書あるいは、一般の人いろんなパンフレットでこの調査を説

明したりするのに、写真使えますよね。

その時に、空中撮影の写真なんかも当然必要ですけども、この側面感ね、写真すごくいいですけど、これはちょっと斜角が低い。これをもうちょっと高いところから撮ってほしい。高いビル探るか、あるいはもうドローンでやるか、何か工夫されて、決定的な写真を。ちょっとこの手前の、建物が見えないような方がいいですね、建物がね、ちょっと見えすぎるんですね。もうちょっと斜高上げて、そういう写真を今後いろんなパンフレットでも、使われたらどうかなど。

委員： 私も同じ意見でございましてですね。そういう意味から気を使っただきたい。私が調べたところで行きますと、全国で 200m級、180m以上の古墳というのは、50基ほど。その中で、また大阪にある古墳でも、もう山ですよ、山にしか見えません。その墳丘が綺麗に見える、200m級ぐらいの古墳で、墳丘が綺麗に見えるっていうのはないですよ。

神戸の五色塚古墳、あれはもう全部発掘しまして、葺石もありますので復元して、本当に作られた通り復元してますけども、あそこは住宅地の中にあります。側面が全部見える場所じゃない。だからそういう面では銚子山古墳は全国的にみても三段築成という古墳時代全部を通して典型的な、古墳の側面が見える。本当にここしかないのと違いますか。本当に 100mぐらいの古墳ではよくあるんですけど。なかなかそれだけの大きな古墳ではないんですよ。

委員： 一部、前方部のところは、土は補ってるけれども、ほとんど手を入れてない。でき上がった姿が見れるっていうところは、本当に貴重だと思うんですね。

委員： 来年はどうですかね、これに説明看板が設置される状態が、入り込んでくるということですけど。工事のでき上がりとしては、今年度末ぐらいで、大体仕上がってきていて、今は片付けしておられましたけど、交雑物がなくなって、この春ぐらいに、空撮すれば一番よいのかなあとと思います。今の市役所はどうですか。ドローン持ってないですか。

委員： もう 1つ確認なんですけど、今車止めが納品されたものをあとは置いて、今年度は終わりですか。側溝のU字溝の方は、来年度ですか。

事務局： 車止めの方は、置き式のをしますし、先ほどの墳丘外のところのグレーチングは今年度につきます。

委員： その部分の斜面が結構斜めで、多分集水柵のためだと思うんですけども、結構子

供が走ると転ぶのではないかな、急角度になってるんで、安全管理面でちょっとどうかかなというふうに思います。ここは柵に向かって多分、水はけができるようになってる。多分足引っ掛かるんじゃないか。

走りやすいところに加えて、砂が入ってましたように、上に砂が流れると余計に転びやすいって思いますし、何か全部この方向に流れて行かないかなっていう心配をしておりました。

京都府：別の話ですけども。ここの写真の、前方部の先端のところの裾から、周溝の中を一直線に、水路、暗渠かなこれが、階段のところまで伸びるんですよ。これ、前にもなんか話出たらしいですけど、これはでき上がってるんだよね。今しか、逆に言えばもう、できるチャンスはないので、あえて言うんですけど、ちょっと水路、もう目立ち過ぎですよ。そのすぐ前の道路の、両側の水路。

委員：水路が3本こう入るわけですね。

京都府：あの辺で、その道路の方はあれでいいと思いますけども、前方部の裾のコーナーから外の周溝を横断して伸びる、真っ白な水路はもうちょっと目立たないようにされた方がよいと思います。

事務局：側溝は市道のところの道路の排水を墳丘の前面部に流して、その次に下の方に流していこうとなっています。ここは、勾配をとるのが非常に難しいところで、ご指摘のところには可変側溝入れてるところだと思うんですけども、それは必要なんです。

委員：ここにはなかったら、その排水ができない。

委員：だからここに入るのはいいんだけど、表面処理をなんかできないかな。

委員：コンサルさん一度検討してみてください。

コンサル：検討いたします。

委員：もちろん無理やったら無理で、それはもういいですよ。まだできるならば。

委員：今日現場に行かしてもらったとき、車を分乗して、一番近くの車止めるスペースにとめたのですが、駐車場は今度整備されて、そこに到着して歩いて行かれる方もおられると思うんですけども、駐車場に車をおいて、銚子山の方へ今日歩いていくとササ

がいっぱい生えていて、あれのために明確に見えないんですね。全体像。そういった意味で到着された方の最初の景観としてインパクトがないなあと思います。

今日も事務局でもそういうことを聞かれていたのですが、区長さんにもお伝えしましたし、何らかの形でそこを綺麗に、草も取って景観を守るというそういう手だてが何かできるかなというふうに思いますけども、検討いただきたいと思います。

委員： 前回、手すりのことが話題に上がっていたでしょう。歩いてみたら、ちょっと私、足がそんなに強くないので、非常にありがたかったです。手すりを持ちながら歩きました。1か所、最初に駐車場から上って次のところは手すりがなくて、ちょっと怖くなっていう感じがしたんですけどそこは手すりはつけないのですか。

事務局： 今のおっしゃるところは手すりをつける予定はなかったところですよ。

ただ他のとこに比べて、傾斜がちょっとゆるめだったところもありました。

委員： お年寄りの方も、結構興味があって登りたい時に、やっぱり何もないとちょっと不安だったので。

事務局： くびれ部から公園部に上がる所につきましては、手すりを付ける予定にしています。基礎まではできている状態です。ちょうど資料の2ページ目の真ん中上の、写真つけてますけども、ここの向かって右側のところに、手すりをつけてます。

京都府： 先日ですね文化庁の調査官の方に、本当は今日来ていただいて一緒にご意見いただけるとよかったですけども、都合が合わなかったので、銚子山に来ていただきまして、ご意見いただいております。

今のところに関わるところでいきますと、後円部の上とかにベンチを設置、今していただいているんですけども、あれがなかなか文化庁は全国でどこにもないという。基本的にベンチを置かないという話が、まずありまして、それについては調査官にもいろいろ協力いただきまして、現状変更として、今既存のベンチがあるので、それも代用なんだという形で一応何とか納得いただいて、ベンチを今置いていただいたという経緯がありますのでそこはご承知おきをいただきたいと思います。

それでその時に新しいベンチも置いて、統一的なところになりましたので古い今の倒れたものとかはぜひ撤去していただきたいというふうなご意見をいただいております。ですので可能なら撤去いただける方が良いのかなと。綺麗になりますのでその方が景色としてもよくなるのではないのかなというふうに思います。

あと調査官が一番心配されたのが、他の全国的なところでも木をたくさん切りすぎると、やっぱり斜面が逆に不安定化して雨が降ったときに崩れ落ちることが全国

でかなり多発をしてるということでした。ですので、特に平地のところはまだいいんですが特に斜面にある木っていうのはあまり切りすぎると、将来的に逆に墳丘をいためてしまったりとかすることがあるので慎重に判断してほしいというふうなご意見をいただいておりますので紹介させていただきます。

委員： 今のお話ですけど、古いベンチ撤去するの簡単ですが、コンクリートを打ち込んであるじゃないですか。あれはどうですか。あれも抜いたらいいんですよ。事務局によるとあれそんなに深く入っていないんだという話なので、おそらくすぐ抜けるんだろうと思うんですけども。

事務局： もし掘ってたらそういう話にもなりかねないんですけども、一遍倒れてるものを見てると、本当にそんなに深くなかったものですから。確かに年数が経ってるので、多分、埃とか土がたまっていって、ちょっと深く入ってるように見えてるだけだと、いうふうに思っています。

委員： あるいは礫が下に並んでる。だからあれを取ってちゃんと土埋めたほうがいいですよ。

## ・令和6年度網野銚子山古墳の整備工事について

～事務局説明～

委員： まず埴輪が15本ですね、数が。

委員： その間隔は、要するに発掘調査の成果によるものですか。

事務局： 材質は、FRPを考えています。今ではプラスチックでもできそうですが。加悦の古墳公園の埴輪と一緒にですね。

委員： 今、史跡整備をずっと進められてて、どうですか、その従来出ている埴輪は、写真の埴輪は、今回の調査の反映部分じゃないですよ。右端のカラー写真は今回の、従来の発掘で出たやつじゃないですね。

事務局： これは平成20年のときの発掘で出てるものでして、追加指定の事前調査で出てきたものです。整備事業の直接の発掘調査と違う部分はありますけども、関連しての調査をしたときに出土したということになります。

委員： 発掘資料を整理されて、例えばこの頭の形ね。いろんなバラエティーが、普通ありますね。埴輪の場合、1種類だけということの方が少ないんじゃないかと思うんですけど、その辺、資料整理で、新しいことが何か出てきてたら、ちょっと教えて欲しいけど、何か突出して多いとかではなく、全体的にバラエティー豊かだなっていうことが今回わかったっていう感じだと思います。ここへ復元する際に14件さかれるのであればね、全部おんなじ形で14本並べてしまうか。一本一本違うものをしてたらもうそれだけ高くなるわけだから、そこまではいきませんが。

仮に、全部同じで行く場合ももちろんあると思いますけど、この頭の形を、どれにするかということもあります。一番左の実測図っていうか復元図は頭が丸くてちょっと高いですね。蛭子山なんかはこのタイプやけどね。銚子山のものってぺちゃんとしてないですか。

事務局： 蛭子山に比べたらぺちゃんとしてるんですけども、ただ、この写真のように、ぺちゃんとしてるのが多いかと言われればそこまででもなく、種類が多いイメージなんです。ただ、頭先から一番下の裾まで残っている埴輪というと今のところこれだけです。型取りしやすいのはこの埴輪になってしまうんだと思うんです。

一番下の段だけが、ないものが今回見つかるんですけども、それもやはりこの頭のぺちゃんとした形になりにくいんです。あとは全体的に復元はできてないのもうちょっと頭がふわっとドーム型になってるけれども作山タイプとかではない。もうちょっと背が低いのが銚子山に多いイメージではあります。

委員： そしたらやっぱりこの頭がちょっとう、低めの方で復元して並べた方が、この銚子山らしくなるわけですよ。違いがわかっていいかもしれないですね。あとは何かぶ厚いとかよく言われますけれど、加悦よりもすごく分厚いとは言われてますけどなかなか復元では、表現はできないと思いますので頭の形で表現するのが一番じゃないかとは思ったんです。

委員： 透かしはやっぱり方形ばかり。

事務局： 今回方形以外のものも見つかるんですけど、これがもうほとんど99%、方形で、ちょっとデザインとして穴をあけたぐらいのものがある。もう基本、復元するのは方形が一番いいと思います。

委員： 左の概念図みたいなやつのように作るというわけじゃなくもっと実物に近いという格好になるんですね。

委員： あくまで模式図といった形で、形式的に書くところのようになりますけども、実際やはり詰めていく。近い形にはして、これがしっかりした復元だったら、展示されたほうが僕はいいと思いますけど。本物に近いことがあり、実測図から起こすようにね。

委員： 実測図から起こしたら、どうしても恣意的になる。もし、修正するとどっちが高くつくかな。

委員： あそこは単価の問題があるし、材質の問題があるので、とにかく形状としては、実測図をもとに、上の膨らみは実物をちゃんと見て、種類多いものを選んで、それを素材にしてあった通りにしなくてもいいんじゃないかってのは私の意見ですけど、あと素材ですよ。FRPは風化する。

委員： 作山で作っている埴輪もはげてきて、もっかい塗っていると聞いてますし、どっちみち破損の恐れはあるんだったら、焼き物でもいいのかな。それも単価に関わるので、その辺の素材を出していただいて、決めていったらいいと思います。

委員： 今の技術開発でもっといいものができる。

会長： その他よろしいでしょうか。そしたら次に説明板の関係の説明をお願いいたします。

#### ～事務局説明～

事務局：今の看板について若干補足をさせていただきます。まず史跡地内、看板についてなんですが、先ほどお話にもありましたように、少し集約して数を減らしていくっていうような形での整理を図りました。また、前回お話したときは撤去すると言っていましたその住宅地から上り口にあるところの古い看板なんですが、これをずっとそのまま活用して残すということになっております。

寛平法王陵としわ榎のところは、前回のお話だと1つの看板で、説明版を作らせていただくようなお話させてもらってたんですけども、名称と内容が2つ、性質が違うものを一緒にするのは、ややこしくなるんじゃないかということもあって、既存の看板も生かし2つに分けられないかなというふうなことを考えていまして、皆様のご意見を、お伺いしたいというのが趣旨でございます。

外部からの誘導サインのことについてなんですが、今、車で来るルートを主としてみたいなお話あったんですが、というよりは、舗装道路上をお客さんに来ていただくことを、メインに想定する方が自転車等も考えて安全面という意味ではいいん

じゃないかということで、今度ご提示させていただいたように、大まかに本覚寺前を通ってくる今までの既存ルートと、新しく駐車場を作るそのルートの方を案内するメインルートは集約して、そこに看板を作る、もちろん公社さんから案内していただいている網野南小から回ってくるのも全然使ってもらうのはいいと思うんですけど、初めてこられる方のために、地道だったり細い道を少なく、アスファルト上のところ、交差点のわかりやすいところを通ってきってもらうルートを想定しています。既存の看板を残して使っていくというのはそのまま使うのではなくてその看板がある場所だったり、看板の支柱を利用して、新しい導線のために盤面を、リニューアルすることで、歩道線と自転車導線、それから車の導線というところで、リニューアルできればというふうに考えております。また、説明資料にもありますが、デジタルマップっていうのも作ってますのでちょっとそこら辺で、オンラインでの、ルート案内みたいな形で、今まで案内していたルートも補完できればというふうに考えているというものです。

京都府：すいません、文化庁の調査官からの話も少し今あったと思うんですけども、文化庁の調査官からは先ほどのベンチと同じですね、整備をして、当時の墳丘の形を、せっかく整備をしているので、そこに極力人工物の新しいものを設けるのがよくないというのが基本的な考え方だと。ですので、もう墳丘の中とか、ステージの中については安全でしかも今回はガイダンス施設を設けるってことなので、そういうときには、基本的に史跡の中にはもう解説版を設けないというのが基本的なんだという話がまずありました。

案内のルートとかは、必要になる場合は、基本的に下にひら置きというかですね、地面に埋め込んだような矢印であったりとか、そういうような形で、極力遠くから見たときに、綺麗な古墳の形が、当時の形をイメージできるっていうのが一番大事ではないかと、というようなご指摘をいただいておって、それに応じて今回案を提示していただいているんだとは思いますが、それでも、案内板とかも結構中で予定されていますので、その辺を前提にご議論いただければ良いんじゃないかなというふうに思っておる次第です。

京都府：おそらく、今回文化庁とは調整が必要ではないのかなと思いますので、その上で、また、本当にいるんですかという話とか、特に今回、やっぱガイダンスがもしない場合はですね、どうしても、ゼロで皆さん来られますので、説明が現地に行かないとわからないんですが、駐車場も設置して、立派なガイダンスも作っていただけますので、そこで中身は理解できる。という前提のガイダンスの中の説明をしていただいたら良いんじゃないのかなという話かなと思います。

委員： 現地の実際の姿じゃ目立たないものにするとして、今挙げていただいているぐらいのものはあっていいんじゃないかなってという意見です。

委員： 葺石の説明をしようとしているのが、4番ですよ。ここ、なんか一体でいいんじゃないかなというやつです。5番っていうのは、結局はそのテラス部分っていうんでしょうかね。4のところ、葺石だけじゃなくて、周辺で触れることのできる範囲はもうやっちゃってはどうか。

委員： 階段からはちょっと距離はあるけれどもそこからくびれの場所が見える。特にその上のところではスロープになってるとい、ああいう特徴は、説明しないと多分わからないがすごい部分で、だからそれを見てもらう注意を喚起する看板を、この内容はそれに置き換える形で設置していただきたいなというのが意見です。

委員： 私はもう、この案でいいんじゃないかなと、思ってます。余計なものはもちろん要らないわけですけども、ガイドランスの中でのパネル内容、それを確定してね。そしてどれが必要かって言う、今のこの4番なんてこれ現地にあった方がいいです。何かバランスとしてふさわしいものを考えられて、そういう考えでどうかなと思う。

会長： 今、先生方のお話でいきますとですね、あちこち見ていただきたいんですけども、まず資料3の平面図のところですが、議論がありましたように、4と5の2つはですね、4の中にまとめて書いてはどうかということで私もそうは思いますね。それから、6はですね私もこれはもう絶対潟湖との関係を説明するのは、ここしかないということですので、やっぱりこれは古墳の説明というよりも、現在の地形の説明をするのが必要だというふうに思いますのでこれはもう絶対欠かせないなというふうに思っています。

委員： 私まち歩きをするときに、皆さんにマップを見ていただくのですが、そこにQRコードが張ってあります。ちゃんとデータを入れられて、皆さんスマホでQRコードを打ち込んでもらおうと。そういうソフトがあるんですけども、そこに飛ばせば、写真と、それから文章は何でもある、というのはたくさん例があります。

なので、できるだけ原稿は現地には書かずに、という方法も1つあるということ。

アプリだと、まち歩きをして、ここで見るとか、自分がどこにいてるかっていうのが出るんです。

委員： それだと、アプリを立ち上げると自分がここにいるとわかる。

委員：それがピンポイントで地図の上に置けるので、そのピンポイントのところに、場所が出るので、そういう方法も1つあると思います。そうすると看板とか解説板とか、あんなにいらぬということになり、今の時代はそういう方法もあるんだけど、

会長：そしたら別紙で観光の資料を作ってもらっています。関係あるかとおもいますので説明してもらえませんか。この裏表の資料。

委員：失礼します。第1回目のは、高齢者大学等の評価です。これを、20名、最終的に25名になりましたけれども、開催いたしまして、ご協力いただきまして、専門的な考えで案内して参りました。

あと年齢層とか見ていただいた通り、少し年齢は高めですけれども。当日ですが、天候が雨と風とでしたが、奇跡的に銚子山に登るときに、少し晴れてきたので、急ぎ上がってまいりました。これ、実行委員といろいろ私と話している中で浦島伝説も存在することから、島児神社から向かいました。バスは、自転車屋さんの山本医院のところから、まだ駐車場がなかったの、連合区長さんところの建物の前お借りしまして、急いで上がってきたんですけれども、本当にもともと歴史に興味がない人もいらっしゃる同窓会ですので、歴史は、あまりっていう方もいらっしゃると思います。年齢、男女比としては同じぐらいでした。

このように、感想としても、取り組んでよかったっていうものでした。

アンケートは、こちらで協力いただきたい内容を提案してたんですけれども、実際私たち古墳をめぐりたいって、バスでとていうのは、年に数回問い合わせを受けるんですけれども、こういった方々にちょっと聞いたほうがいいかなって言うので聞きたいことを盛りだくさんでしたかったんですけれども、まずはそんなに大きく変えてしまうと、皆さん嫌がられるので、最初のとおりとしています。

ここでイベントを開催するならどんなイベントに参加されたいかっていうことなどを聞いています。またその他のところ、ぜひ、入れてくださいということで自由な意見を聞くため設問を作りました。

そうですね、やっぱりガイドが一番いい。歴史文化を見て回るならば、一緒に歩いていただく。専門的なお話とかも聞けてよかった、など意見がありました。

委員：すいません、資料3の一番最後のページ1の網野町の看板。でかでかと静御前とあったりする。これも観光振興課が、管理してる看板です。

委員：なるべく新規は建てないほうが、後の管理で非常に大変になりますので、使えるものは使ったらよろしいんじゃないかと思います。

委員： 多分版面変えただけだったら二、三万の話です。大きいですけど、デザインさえできれば簡単なもんです。あと、先ほど話があった、ストローリーのアプリなんかもう、これこまねこまつりで使っております。

委員： 解説看板の6番についてです。後円の部分のもの。瀧湖のビジョンなんかが出されるみたいで、絶対これあった方がいいと思います。今日、強風の中をあそこに立って、日本海をずっと眺めていただいたわけですがけれども、実はここに、ちょうど埋蔵文化財で作った分があって、その中にイメージ図があるんです。今日後円部から眺めた海のまちというのはほとんど海です。そういうことは我々聞いてはいたんですけども、こういう写真も一緒にやってもらったら、非常にありがたいなと思うと同時に、今から1700年ぐらい前の人たちはどこに住んどったんだろう、ここは全部水だったのに、というふうになってきたら、面白い。

委員： 1つはですね道路の問題ですが、こちらの本覚寺の脇の坂道、これは歩行者と自転車専用ということになってますね。実際のところ、トラック、車も、利用していますね。だから、危険だろうなと思います。

もう1つは山ですね、樹木が道路にせり出してくるということもあって、区としては以前からずっとこう、気を使っていた。市の方の作業としてやっていただきたい。ですからまず1つは、交通安全の面でどうですかというのが1つ。

それから、費用ということで、活用ということで、今度私、社会福祉法人桃山の里をどんどん支援する友の会というところに参加して、明日も資源回収作業なんかをするんですが、今、そこに働いている障害を持った仲間たち、いわゆる通所者の皆さんがですね、非常に安い給料で働いています。陶芸班とさおり。四葉ハウスというところでは、そういった活動も含めてやっていますが、私が今までから言ってるのが、社会福祉法人の桃山の里をですね、何とか活用面で生かしていただきたい。

せめて完成がなされた1年から3年の間には、何とか頑張ってやって欲しい。

私もいろいろと提案をしまして文書で、やっていますが、最近驚いたのは、彼らがですね、もう自分で考えて、例えばこれ、ストラップなんですけれども、さおりで作った。こういうものも、それからこれ、道具ストラップ、これ自分で調べて私何も言うてないんですよ。だから非常にこう、やる気を持ってですね、さおり班が取り組み始めた。

陶芸班の方ではですね、円筒埴輪を今作っています。そしたらそん中の1人の通所者が、こういう缶バッチのようなものをですね、作ってもらってます。これは仁徳天皇陵のですね、形になってますけれども、私が日本海最大の古墳の、そして網野銚子山という文字はいろいろ言うことで入れてもらったんですが、こういうものを今ですね一生懸命、やる気を持ってね作ってるということで、ちょっとまた皆さん見て

いただいたらと思います。

委員： 最近思うのは、うちの2階から見えるんですけども、銚子山もここから先ほど見た風景は今までにない風景だというふうに思ってます。過去に、加工場のあたりから眺めた、30年も前の写真では、銚子山古墳がそこには写っているのではと思いますね。例えば網野公民館、坂の上にありますけれどもそこから車で降りてくると後円部がですね、はっきりと見え始めております。おっと思うぐらい。

樹木がですね、確かに斜面の土砂が非常に流れてくるということもあるでしょうが、いろいろな角度から見えることによってですね、自覚できるというか、古墳の街だということが、再認識されるというふうに思いますので、できるだけですね、見える、できれば浅野川港から、全部こういうふうに見えるし、見えるぐらいのものができるといいのかなというふうには思っております。

この彼らがですね宣伝用に、いろいろと考えてますんで、チラシなんかも作っても、それから陶芸班がですね、私は工芸でその円筒埴輪とは言うところなんですが、箸置きを考えて欲しい。今考えているんですけども、これ前方後円墳あるわけです。町でこういうものをですね、できれば、ホテル、それから飲食、このあたりが網野らぼーと、もちろん観光公社さんも、いや、協会さんもですね、そういうものに協力していただいて、社会福祉法人が1年でも2年でもその活用によって、グループで応用できる、そういう作戦を練っていただきたいというふうに思います。

事務局：先ほどの看板のことについてご意見をお伺いしたいというところがありまして、今回文化庁さんからご指導もあってということでもちょっと看板をどうするか。我々の中で考えていて、現状、その実際に、物が残っているというこの現状についてやっぱり我々も現地で見ながら、見える看板ってあったほうがいいんじゃないかというところと、必ずしもすべてが駐車場に行くわけではないと、いきなりふらっとやってくるということも考えるとやっぱり現地に看板をしたほうがいいのではないかと、この案内板を集約しつつも残してたというのがありますこれは、皆様からいただいたご意見の中でもやっぱり同じようなご意見なのかなということなんです、もう1つ誘導看板なんです、誘導の看板って見えなきゃ意味がない。誘導するものは、誘導なんだから、目につくところがないといけないんで、必ず目線の先に上げなさいということになるとちょっと誘導の機能はちょっと弱いんじゃないのかなというのがあると思うんですね。ちょっとそういったところで、例えば公社さんとか、どのようにお考えなのかなというところ、若干のご意見をいただきたいなというふうに思っております。

その観点で考えると、ただ墳丘上の5番の看板は、前方から後円に行くだけの案内などで見ればわかるから、それはなくてもいいんじゃないかというのも我々も実は

思っています。このことも、ちょっと一緒にお話しできればなというふうに考えたところでは。

委員： 先ほどのご意見をもってもですね、これからもそういう傾向になってくると思うけど、我々年寄りはその自体を使えません。

委員： 小学生、誰も全員スマホ持ってあるわけです。やっぱりそういう学校が来てグルグル回るとき必要だろう、先生が先導しても必要だろうというふうに思いますので、両方やっぱりあった方がいいんじゃないというふうな気がします。

事務局：素晴らしいなと思っておりますけれども、確かに誘導看板、立場上私どもも案内は、そういった見えやすいわかりやすいというのが一番だと思うんです。あと、近年、例えば、どこで写真を撮るかってなったときに、やっぱり看板の前っていうところが多いね。これ、何かこうなってしまう。どうしても、ここでとりました、この写真をみんなに共有しましょうとかっていうのを拡散するという意味では、やっぱりちょっと弱いかないところですね。ちょっとこういった観点で検討させていただきたく思います。

委員： 活用でちょっと個人でというか、私写真撮ったりするんですけど。ウエディングとかマタニティ写真撮るときは、看板はちょっとない。特に海が見える背景、取りたいなあと思ったときに、そこに看板がかかったとするとちょっと。ちょっと真ん中ぐらまで引き下げてもらえたらうれしいというか、あと前方部の方ももうちょっと海が見えたらうれしいなと思って。

委員： 文章部分は、視界を遮らないようにっていうのは今のちょっと足元まで写るんで、上に行くとか無理だよ。

事務局：先ほど委員からいただいたデジタルマップというかわゆるストーリー関係ですけど宣伝の部分なんですけど実は文化財保存活用課でも3月下旬のリリース予定で、京丹後歴史文化めぐりマップというデジタルマップをサービス開始する予定で作っております。その過程で、ストーリーですとかマップとか、いろんな検討させていただいた経緯があるんですね。なので我々も存じ上げてるんですけど、確かにそのデジタルなので、写真いっぱい載せるんですけど、継続的に費用かかり続けるっていうのは逆の面と、先ほどあったようにスマホ持ってない世代の方にはできない。あとそれからふらりとやってきた人はそこでの情報を拾えないっていうデメリットの部分もあるんですね。

なので今回、歴史のWebマップを作るので、ちょっとそこのところでうまいこと補完をしつつ、現地は現地で残しつつみたいなバランスをとればというふうには、思っております。

看板なんですけど、あそこが京丹後市の土地で看板も観光で置いてるというのがありましたので、こちらの看板とか、既存の看板をできるだけ使っていて、できれば張りかえについてはちょっと要相談でこれからの結果になるんですけども、そういうところに行きたいかと思えます。

委員： 駐車場あたりにして何か、そうした連携ができるところを作られるんですけど、もう1つYouTubeあたりで、銚子山を扱った番組が1個あったような気がするんです。そういったことで、講演会に向けての調査も番組にして、YouTubeとかに上げたらうまく見られるんじゃないかな。

会長： そしたら次に、休憩所の計画について説明をおねがいします。

事務局： 資料の1に戻っていただいて、15ページですね。先ほどサイン計画の中でもちょっと1つ、お示しはしていたんですけども、休憩施設につきましては、検討しております。図面のような平面図で考えております。繰り返しになりますが、東屋を設置しないということにしましたので、休憩所と、ガイダンス、トイレですね、トイレはユニバーサルの仕様のものが一つあり、多目的トイレという形で考えているというところでございます。

そして、こちら16ページと17ページに側面図を、タイプABCとございますけれども、基本的に今のところ、また、Cタイプぐらいなのかなあというふうに思っていたりはするんですが、こういう3つの案が出ておまして、景観に馴染むというところも大事な要素であると思えますので、この3つの案のところから、選ばせていただこうかなというふうに考えているところでございます。

こちらについても、工事を進めさせていただく予定にしておりますので、そこら辺のご確認をよろしく願いいたします。

委員： このガイダンス施設については当然、来年度予算ですのでまた最初の会合以降行われるかわかりませんがそのときにまた、詳しい説明があると思うんですけどこれガイダンスとしてですね、いいと思うんですよ。

ただ、欲を言えば、こしかけが休憩室のところに、あるんですよ。ここにももちろんあっていいと思うんですけど、もう1つ、こう入って、つきあたりの壁ね。このところにもスペースを設けてもいいんじゃないかなと思う。

例えば、お客がここへ入って、やっぱりちょっと座りたい人もあると思うんだよね。

そこで説明がある、それから、立ってずっと見学して出ていく。いろいろあると思うけれども、一応重要性とか考えて高齢者の方のこと考えたらこの突き当りのところにも座るスペースを、こしらえはった方がいいんじゃないかなあと思うんですね。

そして、その腰かけスペースの下側には、袋とか何かつけてね、物が収納できるようにしたら、パネルの修理などとかいろんなもん出てきますが、パンフレットを置いておきたいとかね。収納のスペースがあった方が、今ちょっと多目的に使えるんじゃないかなと思いますね。

委員： 小さいですよスペースが。4500 ぐらいじゃないですかね。そんなに大きいのではないんですよ。そうすると、あんまり動けないんじゃないかな、パネルぐらいしか、という気がします。

委員： 今回ちょっと考えて、あかん、どっちだって管理をしなければならぬですが、それ以外にもないし、やっぱり何らかの方策をして、考え、再度要請してください。

委員： ガイドランスの場所は素通りする場合もあるが、場所が決まっているんですか。

委員： 建物の駐車場での位置ということですかね。

事務局： 駐車場につきましては大型バスが入るように、検討はしています。しかし限界があって入口をどこに設定するかっていうのがなかなか難しいところで、傾斜がありますので、今のところ検討を続けてるところなんですけれども、駐車場、上の方から入った方が入りやすい。設計の業者さんと相談してもやっぱり展開難しいというふうにも聞いております。可能なように提案をさせていただいていると思うんですけれども、その辺はしっかり考えていくということです。

委員： そう、大型バスが楽々入れないようなのは困るでしょう。

事務局： 大型バスを入れるっていうのは、最初っからの課題ではあったんですけど、ちょっと前面道路、なかなか拡張するわけにいかないというところがありますので、条件が厳しいところなんですけれども、工夫をしていきたい。

委員： 道路に関連して、仮にバスがそうやって入ってくるとなると、下回ったところの交差点が気になります。安全の意味からも注意が必要で、通学路でもあるのでそういうところも配慮が必要なんだろうという意見があります。

## ・今後の網野銚子山古墳の活用について

事務局：活用の件で、改めての部分になるかというところなんです、オープニングイベントをするにして、もうさすがに1年後でございまして、ちょっと春ごろっていうような表現をやめて、もう今から日にちを決めていかなきゃいけない。何月何日だっというのを決めないといけないというところを考えておりますので、我々の中で候補にしておりますが令和7年の、4月19日土曜日、或いは4月26日の土曜日、はどうかというふうに考えております。

完成が年度末になって、年度明け、年度末のところバタバタしているのがちょっと望ましくないというところで、かつ、令和7年の4月の19、26ですと、大阪万博もスタートしていろいろな旅行の人も増えるんじゃないかということも考えたりはしております。

土曜日で、オープニングイベントして時間的に、午前中の遅い目か午後一番でさせていただくことで中近距離の方も来ていただけるような時間で設定はどうかというのを今ちょっと考えているんですね。時間についてはまだ幾らでも調整はきくと思うんですが、日付を4月の中下旬でゴールデンウィーク入前のタイミングまでで設定したいなというふうに今考えております。いろいろな関係者の予定も詰めないといけないという中でまだ決め打ちはできないというのが、正直なところなんです。さすがに皆さん、ご意見いかがでしょうか。

委員： オープニングイベントは、具体的にどのようなものと考えていらっしゃるのか。

事務局：具体的にはないんですが、テープカット等と、遺跡を紹介するというのに合わせていろいろな旅行者とかを誘引したいなというのがあります。後は、古墳関係で、いろいろ積極的にSNSとかで活動してるようなインフルエンサーにも宣伝をしたい。あとは地元の方にも活用してくださいねって言って、具体例がないとだめなので我々でちょっとホームページなんかもして例えば、先ほど言われたグッズも一緒に売ってもらうとか、その町のお祭りみたいな形を地元でもできないかなというふうには今思っています。あとはもちろん、このガイドしていただきたいなど。プロによる説明なんかももちろんあってもいいなというか、お祭りのなものです。

事務局：地元の方々にも参加していただきやすい或いは今後のことを踏まえたときに、この場でも、1度、お示ししたんですけど、例えば大阪でやってるようなハニこっとみたいな、地域の史跡が常に何かイベントをしていくっていうのをできるようなイメージっていうのをできればなというふうに思っています。

委員： 行政だけでいいんだろうか。一般市民の人が、どれだけ参加してもらえればまた主催者になってもらえるかという、そういう話し合いしないとけない。

委員： もう3年4年前ですけど、まりこふんの歌を聞いたことがあります。今NHKの教育テレビなんかで、出て来て説明しますという、もうあれだけ何年も古墳で、商売どうですか、そういうのがあってもいいかなというふうに思っています。

委員： 他地域はどういうそのイベントを開催してるとかということも参考に、していただけたらと思います。

委員： やっぱり学校教育で、どうしてもね、地域の学習の中に、古墳を取り入れていただきたい。かつては網野小学校では、銚子山古墳の学習をしてました。今現在南北に分かれて、されてるかどうかちょっとわかりませんが、総合的な学習の時間や社会で一番使いながら、だんだんと地域の子供が古墳について語れるというぐらいのことは、やっていただけたらありがたいというふうに思いますけど。

委員： それからね小銚子のことと、もう1つ寛平法皇があるんですが、これは例年、長田区で寛平法皇祭という祭りをねずっとイベントにしてたんですけども、ここもね、できたらまた、観光客の人が上がって、ここは古墳だったんだという意味では、草刈とか、整理をしていただいて、物置みたいな小屋もありますので、すでにステージ使ったような、そういうことの利用をしていただけるようになれば、使ってもらえやすいかなというふうには思っていますけど寛平法皇陵も含めて、整備をしていただきたい。

### 3 閉会挨拶

副会長： 皆さま、お疲れ様でした。なかなかですね、いろいろな議論が出たわけですが、この議論も意味があるように、こういうようなことを続けながらですね、なにか良い案を提示していくというのはこれ、この会議の趣旨でしょうし、今後ともよろしく願いいたします。